

# 【国語・中1・「古典に学ぶ（竹取物語）」①】

## 育成を目指す資質・能力

- (知識及び技能) 音読に必要な文語のきまりや音読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。 (3)ア
- (思、判、表等) 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。 C1
- (学びに向う力等) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

## ICT活用のポイント

共有した考え方を比較し、登場人物の心情を捉えた授業

【つかむ】

登場人物とあらすじを確認し、学習のめあてをもつ。  
「描写をもとに登場人物心情を捉えよう」

【追求する】

最も悲しんだ人物とその理由を共有し、相互評価する。

【まとめる】

クラス全体の傾向や選んだ人物について、発表する。

## 事例の概要

### 【事例におけるICT活用の場面①】

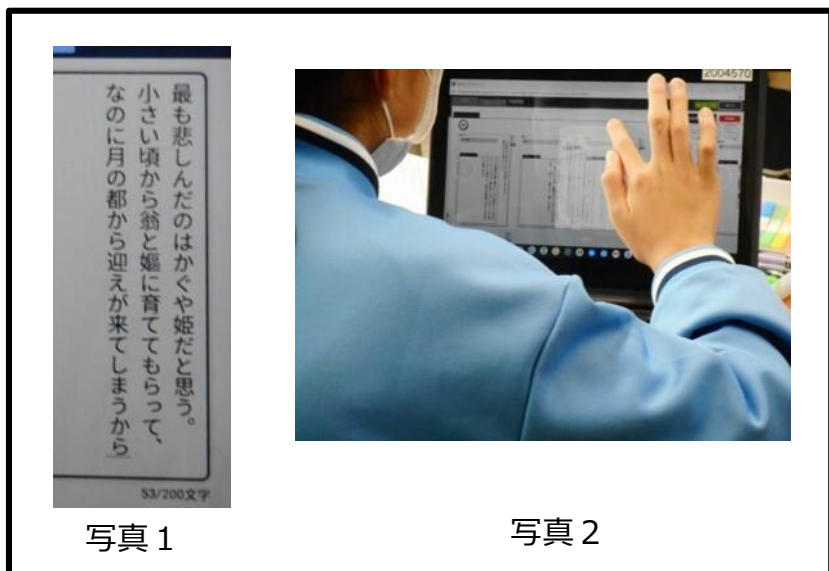
- 選んだ人物の理由を学習支援ソフトを活用して入力し、提出することで登場人物の心情の変化について、共有できるようにする。共有された理由の共通点や相違点を比較し、よいと思った理由について学習支援ソフトの「拍手」機能で伝え、相互評価する。

### 【事例におけるICT活用の場面②】

- 学習支援ソフトの集計機能を活用して多かった人物や少なかった人物を確認し、同じ人物を選んだ理由を発表し、比較する。

# 【国語・中1・「古典に学ぶ（竹取物語）」②】

## 【事例におけるICT活用の場面①】



考えを共有する場面では、生徒が学習支援ソフトで自分の考えを入力し、提出することでお互いの考えを共有した。写真1は自分の考えを入力した画面で、考えをまとめるポイントが絞られているので、生徒は簡潔に入力できた。写真2は学習支援ソフトで提出された考えを読み、自分の考えと比較して、よいと思った考えには、「拍手」機能を使って相手に伝えている。このように入力操作に多くの時間を費やすことなく、お互いに考えを読む時間が確保でき、多くの考えに触れたり、自分の考えにどのくらいの共感が得られたかを知ったりすることで相互評価につながった。

## 【事例におけるICT活用の場面②】



生徒の意見をまとめる場面では、学習支援ソフトの集計機能で、選んだ人物の集計状況を一瞬で提示し、生徒の興味・関心を持たせた。教師が意図的に代表生徒の考えを選び、大型画面に表示して、その理由を比較させた。同じ人物でも理由が様々であることや違う人物でも同じ言葉を使っていることに気づかせることで、登場人物の心情を捉え、まとめにつなげさせていた。

### 【活用したソフトや機能】

- ・学習支援ソフト
- ・情報収集やデータ交換